

授業科目 聴覚障害 I

【担当教員名】 桑原 柱		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	◎	○	○		
【概要】 聴覚障害児に対する正しい理解と適切な指導のための基本理念を理解する。 小児聴覚障害の種類と、その特性・評価・訓練・指導・助言について理解する。					
【学習目標】 1. 聞こえとその障害についての基本的な知識を持つ。 2. 小児聴覚障害の原因や種類を理解する。 3. 聴覚障害児の発達（心理・行動特徴、言語・コミュニケーション特徴）を理解する。 4. 聴覚障害児の検査と評価を理解する。 5. 聴覚障害児の言語発達に必要な環境調整を理解する。 6. 聴覚障害児の言語指導・訓練プログラムが立案の要点を理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	聞こえの仕組みとその障害について理解する。			1	講義
2	小児聴覚障害の原因や種類を理解する。			1	講義
3	聴覚障害児の聴覚と言語発達について理解する。			23	講義
4	聴覚障害児の聴力検査法の種類と適応について理解する。			4	講義
5	聴覚障害児の聴力検査法の種類と適応について理解する。			4	講義
6	聴覚障害児の聴取能力の検査と評価方法を理解する。			5	講義
7	聴覚障害児の言語力とコミュニケーション能力の検査と評価法について理解する。			5	講義
8	聴覚障害児の発声発語検査の方法と評価を理解する。			4	講義
9	聴能訓練と聴覚学習についての基本を理解する。			3	講義
10	聴能訓練と聴覚学習についての基本を理解する。			3	講義
11	コミュニケーションモードの選択とコミュニケーション指導について理解する。			3	講義
12	聴覚障害児の指導訓練プログラムの立案に必要な要素を理解する。			45	講義
13	発声・発語指導の方法について理解する。			6	講義
14	重複障害・環境調整・関係機関との連携について理解する。			56	講義
15	まとめ			56	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		言語聴覚士のための聴覚障害学	喜多村 健	医歯薬出版株式会社	2007・4,000円＋税
参考書		言語聴覚療法シリーズ6 改訂聴覚障 害11―臨床編	山田弘幸	建帛社 ISBN 978-4-7679- 4526-2 C3047	2008・2,500円＋税
その他の資料		必要に応じてプリント配布			
【評価方法】 講義の区切りミニテストを行う。定期試験とミニテストの成績・授業の出席を考慮して評価する。			【履修上の留意点】 出席を重視する。予習や復習など主体的な学習とノートのまとめ・ミニテストを重視する。 教科書に従って学習するのではなく、必要に応じて使用していく。		